

積み重なる差別と貧困 在日朝鮮人と生活保護

横浜市史資料室 調査研究員

金 耿 昊

【出版物の概要】

(著者名)	金 耿 昊
(出版社)	法政大学出版会
(発行日)	2022年3月30日
(発行部数)	1,000 部
(価格)	3,800(+税) 円

【刊行の目的】

本書は、在日朝鮮人と生活保護の関係に関する歴史研究である。これは日本の排外主義運動が「在日特権」として非難の標的としてきた問題であり、その歴史的淵源を検討することは今日的にも重要である。しかし、その歴史事実は十分に解明されておらず、1950年代における生活保護行政の記録や新聞記事によって形成されたイメージが無批判に参照されてきた。

そこで本書では、生活保護行政や民族組織の関連資料を幅広く収集し、この問題の歴史的経緯を総合的に解明することを課題とした。また実際の記述では、単なる統計数値や行政記録の羅列にとどまることなく、当時の人びとの貧困の実態や、その中で当事者が主張していたことの意味、南北分断・朝鮮戦争・日韓会談・北朝鮮への帰国などとの関係や、現在の問題とのつながりを描くことにも努めた。

これらの努力の成果として、本書は在日朝鮮人の歴史像をより豊かにし、現代日本の社会問題を考える上でも重要な内容を備えることができたものと考えている。そのため、書籍として広く世に問うことにしたい。

【期待される効果】

本書の内容は、現代日本における差別問題、マイノリティの人権問題、格差・貧困問題、公的扶助をめぐる問題などにも深くつながるものであり、さまざまな地域の事例と重なる形で議論を喚起することが予想される。そのため、歴史学にとどまらず、政治学、社会学、平和学、社会福祉学など、さまざまな分野の学問にも広く参照されることが期待される。

また本書は法政大学出版局の「サピエンティア」に収録された。これは「グローバル化のもとで頻発する戦争、南北間に広がる格差、社会的差別や貧困、環境、人権、平

和、生命をめぐる問題など、現代世界の抱えるアポリア(難問)を読み解くために、広汎な分野の《知恵》を結集して読者とともに考える」という趣旨のシリーズである。学術研究書としては比較的廉価であり、内容としても市民にひろく読まれることを念頭に置き、できるかぎり平易な記述を心がけた。ヘイトスピーチの問題に取り組んだり、在日朝鮮人の歴史を知りたい人々だけでなく、上記のシリーズの趣旨に賛同するさまざまな市民にひろく読まれることを期待したい。

【その他の考察】

本書は誰も解明してこなかった歴史事実に光をあてる先駆的研究であり、横浜市・神奈川県の記事を含みつつも、マイノリティの人権問題・貧困問題という観点から現代の社会的要請に応える内容をもちえているものと推測される。

また著者は現在、横浜市史資料室に勤務している。今後は自身の専門研究の成果を横浜市や神奈川県における地域史研究にも還元できるように努めたい。地に足のついた歴史研究を重ねることにより、今回の助成を地域貢献につなげていくことができると考えている。

sapientia
サピエンティア 64

겹겹이 쌓인 차별과 빈곤

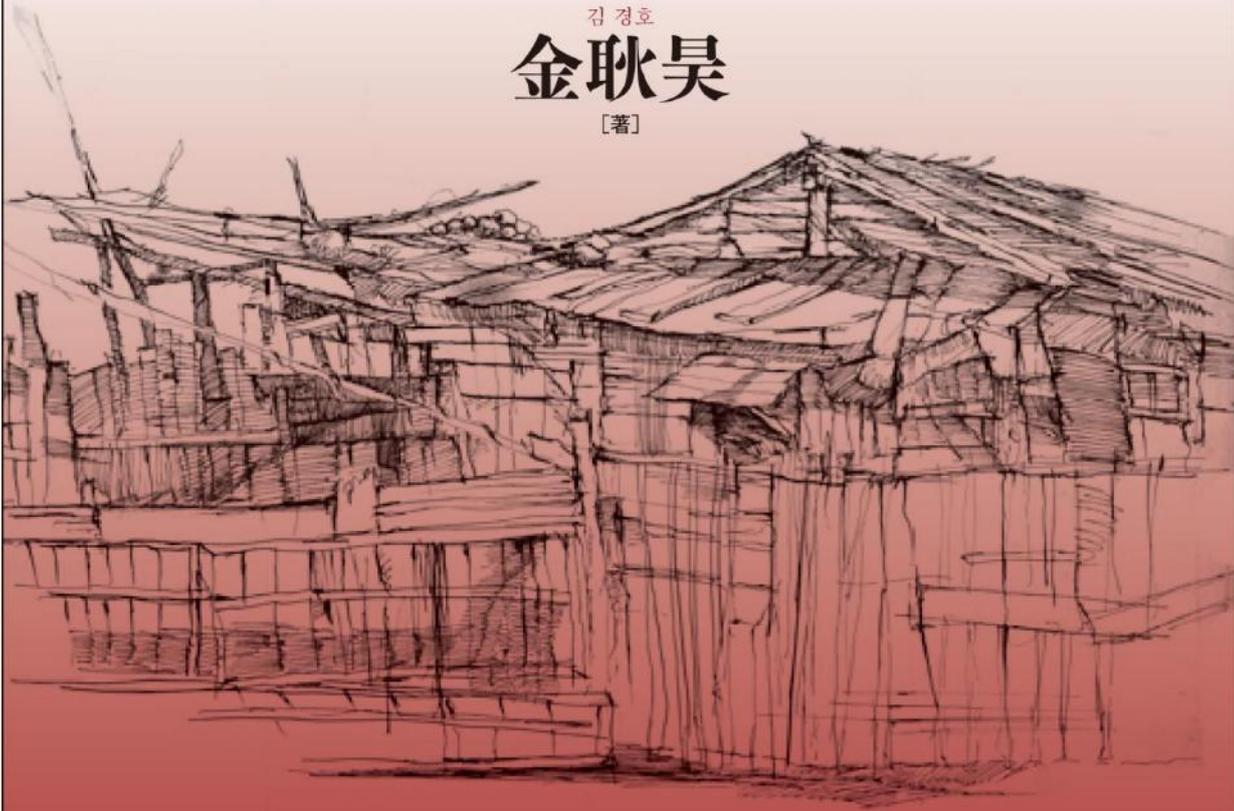
積み重なる 差別と貧困

在日朝鮮人と生活保護

김 경호

金耿昊

[著]



法政大学出版局

法政大学出版局

<https://www.h-up.com/bd/isbn978-4-588-60364-8.html>